

令和 7 年度 学校経営環境分析書

和庄中学校区 校番 13 学校名 和庄小学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) 〈地域環境〉 ・学校周辺に公共施設や歴史・文化施設、商店等がある。 ・学校周辺に砂防ダム、災害用井戸等がある。 〈教育環境〉 ・ゲストティーチャー、登校見守り等の学校行事への参加があり、学校支援の体制がある。 ・NIE実践指定校であり、新聞を教材として活用することができる。 〈小中一貫〉 ・小中一貫が充実し、4校に連携体制が整っている。	S (強み) 〈児童・生徒の実態〉 ・異学年で仲良く活動したり、役割を果たしたりできる。 ・優しく穏やかな児童生徒が多い。 〈教職員集団〉 ・「チーム」としての意識が高く、協力して教育活動に取り組む。 ・自分の仕事に責任をもち、やり遂げる教職員が多い。 ・ICTを効果的に活用した授業づくりが進んでいる。 ・中学校の免許を取得していたり、継続的に特定教科の研修を受けたりしている教諭が多い。	内部環境
	T (阻害的要因) 〈地域環境〉 ・商業地域と住宅地が混在しており、児童生徒を取り巻く環境が多様化している。 ・交通量が多く、登下校での安全面で課題がある。 ・校区に傾斜地があり、土砂災害や洪水等の危険がある。 ・自然体験や運動ができる場所が少ない。 〈家庭環境〉 ・外部機関との連携が必要な場合がある。	W (弱み) 〈児童の実態〉 ・主体的に行動し、最後までやり切ることができない児童もいる。 ・学力差が大きく、基礎学力の定着を図らなければならない児童がいる。 ・既習事項を活用して問題解決することに課題がある。 〈学校・教職員〉 ・学校施設の老朽化が進み、修理修繕が必要な箇所が多い。 ・教職員1人あたりの分掌量が多い。	

* 和庄中学校共通事項

支援的要因と強みを生かした活動・取組は

*小中一貫教育を推進し、9年間を通して和庄中学校区で設定した資質・能力を育成する。

*組織として主体的・協働的な学びを進め、学力向上を図る。

*防災教育において、地域の特色を生かしたカリキュラムマップに基づいた実践を行う。

*教科担任制を導入し、主体的な学びを進め、学力向上を図る。

- ・ICTを効果的に活用した授業づくりや家庭学習を更に一層進め、学力向上につなげる。
- ・保護者、地域と連携し、人を大事にし、学校や地域社会に貢献しようとする気持ちを育む。

〈生徒指導の推進〉

*9年間を見通した組織的な生徒指導を行う。

*「和庄中学校区スピリット」の浸透に向けての取組を充実させる。

- ・教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を構築する。

〈学力向上〉

*和庄中学校区授業モデルによる授業づくりを行う。

〈体力・運動能力の向上〉

*「メディアコントロール」の取組により基本的生活習慣の定着を図る。

- ・外遊びや運動の習慣化、体力・運動能力の向上を図る。

〈教職員体制〉

- ・主任を中心に、一人一人のよさや強みを活かした組織体制を確立する。

阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は

2 重点課題

○和庄中学校区で設定した資質・能力を育成する。

- ・基礎・基本を定着させ、「考える授業づくり」を実施し、思考力・判断力・表現力を育む。
- ・地域の特色を生かしたカリキュラムの実践により、家庭を巻き込んだ防災教育の深化を図る。
- ・「和庄中学校スピリット」に基づく児童を育成する。
- ・基本的生活習慣の確立や体力・運動能力向上を図る。